令和５年度　福井県立盲学校　学校関係者評価書

【問】　学校評価書の成果と課題について適切かどうか。
　　成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。

【意見を伺った方】
・　本校 PTA 会長・役員、福井県盲教育振興会会長、福井県視覚障害者福祉協会会長
・　羽二重ねっと代表（学校眼科医）

【御意見欄】

＜教育課程･学習指導＞
・教員が教材研究を重ね、楽しいと思えるしかけを取り入れた授業を実施してきた結果がアンケートに現れていると思う。教室内の児童生徒が１人だと他者の意見を聞く機会がなかなか得られないが、他校とのオンライン授業など工夫をしていることも理解できた。

＜生徒支援＞
・自分が盲学校に通っているときは、お互いに助け合って兄弟のような関係を築くことができ、また学校を卒業してからもその繋がりが残っている。体育祭やその他の行事で、生徒が運営にも参加し、活躍できることは、生徒が自信をもつことや自他の理解に繋がっていくことなのでこれからも続けていってほしい。

＜進路支援＞
・普通科で毎月行っている支援会議で個々の生徒の進路の方向性や行事について話をしていることが、進路の自己実現に繋がっていることを生徒自身が感じられているのなら、その取組は効果があったと思われる。

＜保健管理＞
・幼児児童生徒の災害時の安全のためにも、福祉避難所についてしっかりと話を煮詰めてほしい。

＜図書・研修＞
・今後も幼児児童生徒が、学習の中で効果的に視覚支援機器を使えるよう取り組んでいってほしい。
・専門性チェックシートを使って専門性の可視化に努めているのは良いことだと思われる。それを盲学校全体で取り組んでいってほしい。

＜視覚障がい相談支援＞
・ロービジョンに力を入れられていることは理解できた。学校も知らない視覚障がい児者がまだまだいると思われる。もっと視覚障がい教育についてアピールが必要である。保護者がお子さんの視力をあまり認識していない場合もあるので、どのようにそうい

うニーズを掘り起こしていくかが課題である。また（見えにくいことが）分かりにくい障がい者がまだいると思われるので見つけてあげてほしい。
・通常校にいるロービジョンのお子さんは実技を伴う活動をなかなかさせてもらえない面がある。教育相談でのスクーリングでそのような活動を体験する取組をどんどん進めてほしい。
・教育相談の取組のお陰で、通常校でも視覚障がいのお子さんが学校生活を送っていけていることを感じた。しかし、盲学校でだからこそできること、できるようになることもある。教育相談の保護者に対する啓発をもっと進めてほしい。

＜寄宿舎＞
・寄宿舎での日常生活に対する支援で児童生徒ができるようになったことを、家でも実行する取組を今後とも続けていってほしい。

＜人権教育＞
・引き続き、人権意識の向上と幼児児童生徒の自己肯定感を高める取組をお願いしたい。

＜全体を通して＞
・盲学校の啓発活動とともに、医療・福祉・教育が一体となった機関、視覚障がい教育のセンター的機能をさらに形にしていく取組を続けていってほしい。

【学校関係者評価を踏まえた今後について】
・具体的案を検討し次年度につなげたい。
・本県における視覚障がいに特化した特別支援学校として、職員全員への専門性の浸透を図り、また、盲学校が取り組んでいる視覚障がい教育を幅広い皆さんに理解してもらえるよう、効果的な啓発方法について今回の御意見を踏まえながら探り、校内全員で啓発活動に取り組みたい。